

2017年4月27日(木)
株式会社ボーネルンド

～ 昔と今の公園に関する意識調査 ～

親世代の約7割「昔より規制が増え、遊具が減った」**子どもが公園で遊ぶ頻度と時間が減少**

子どもの健やかな成長に寄与することを目的に教育玩具の輸入・開発・販売と遊び環境開発を行う株式会社ボーネルンド(本社:東京都渋谷区、代表取締役社長:中西弘子)では、4月中旬に、3歳～12歳の子どもを長子に持つ、全国の母親・父親1,600人に、自身が子どもの頃に遊んでいた「昔の公園」と、自身の子どもが現在遊んでいる「今の公園」について、インターネット調査を実施しました。

当社では、5月5日の「こどもの日」を、子どもの健やかな成長について大人全員が考える日とすることを提案し、社会全体が子どものあそびの大切さや子育て環境を見直すきっかけにしたいと考え毎年調査を実施しています。

今回は、子どもが外で自由に遊べる貴重な環境である「公園」をテーマに、昔と今の状況の違いやあそびの実態に関する調査を行いました。近年、公園での事故やトラブルなどに対する不安から、遊具の撤去事例や敷地内での禁止事項・規制が増加し、子どもが自由に遊べる環境が減っています。本調査では、実際に公園を利用する方々の意識と実態を明らかにすることで、子どもにあそびを保障する大切な場である公園について、改めて考える機会を提供できればと考えています。

【 調査結果のポイント 】**■ 親が感じている今の公園に対する意識**

- 9割以上の親が、子どもが公園で遊ぶことが子どもの成長にとって大事だと考えている
- 約半数(46.8%)の親は今の公園に対して、昔よりも「魅力がなくなった」と感じており、昔よりも「規制・禁止事項が増えた」(77.9%)、「遊具が減った」(67.0%)と回答
- 半数ないしそれ以上の親が、子どもを公園で遊ばせるのは「治安面」「安全面」の理由から不安と回答

■ 子どもの公園あそびの実態

- 昔と比べて今の子どもは、公園で遊ぶ「頻度」(週一回以上＝31.4ポイント減)と「時間」(1時間以上＝17.7ポイント減)がともに減少
- 親世代が子ども頃の公園での遊び相手と、今の子どもの公園での遊び相手を比較すると、「同年齢の子ども(26.7ポイント減)」や「異年齢の子ども(11.7ポイント減)」の割合が減少し、「母親(32.3ポイント増)」や「父親(29.8ポイント増)」の割合が増加
- 親が考える今の子どもが公園で遊ぶ理由のトップは「体を動かすこと」(78.7%)。その一方で、約8割(77.9%)の親が昔よりも公園のあそびに関係する禁止事項・規制が増加したと感じている。
(増加した禁止事項・規制例:球技・・・5.48倍増、フリスビーなどの投擲あそび・・・4.78倍増)

【 調査概要 】

調査方法：インターネット調査

調査地域：北海道、東北、関東、中部、近畿、中国、四国、九州・沖縄地方の8エリア

調査対象：3歳から12歳の子どもの長子を持つ、20代から40代の「公園で遊んだ経験がある」母親・父親

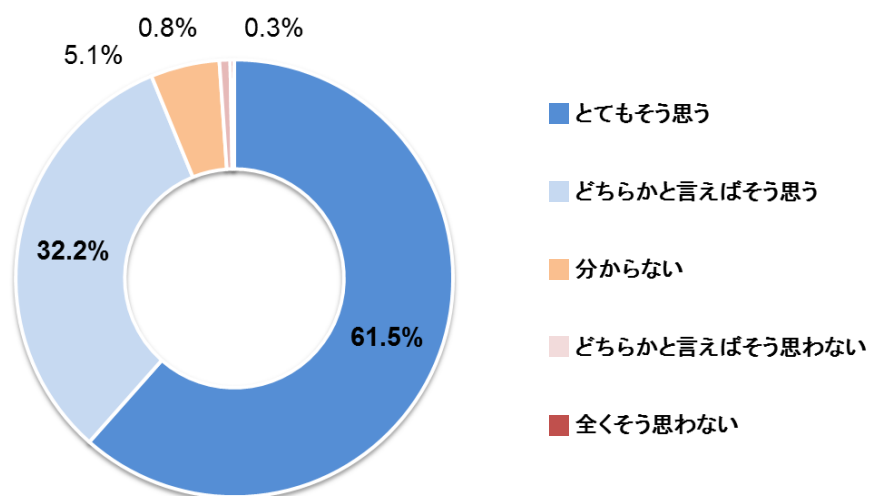
有効回答数：合計 1,600 サンプル(調査実施 8 地域×200 サンプル)

調査時期：2017 年 4 月中旬

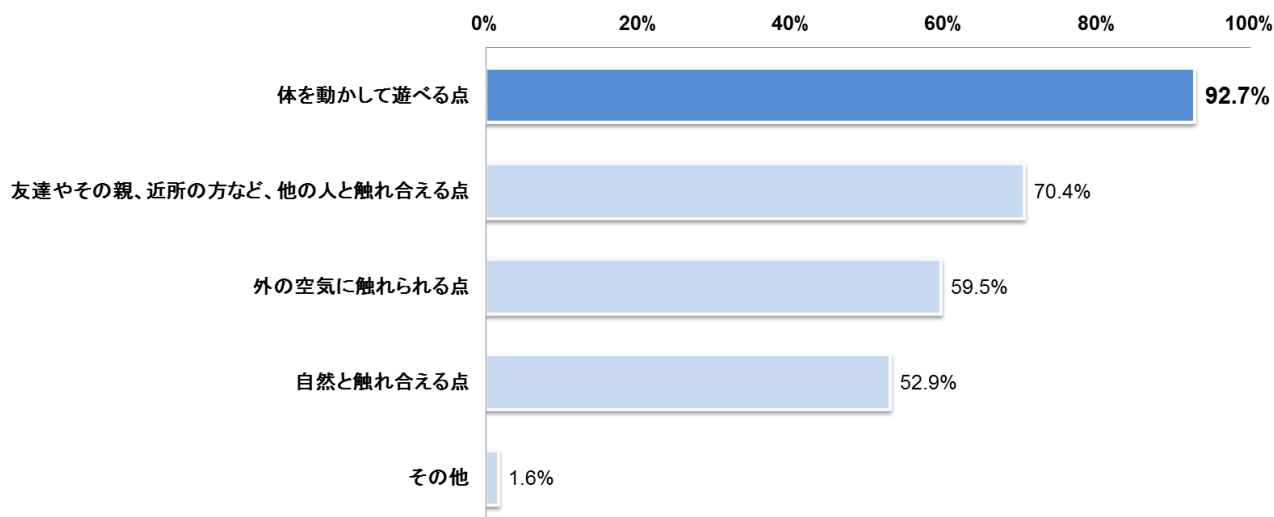
【 調査結果 】 ※構成割合は四捨五入をしているため、合計が 100 にならない場合があります。

「公園で体を動かせること」に対する期待値が上昇

Q. あなたは公園で遊ぶことは、子どもの成長にとって大事だと思いますか。

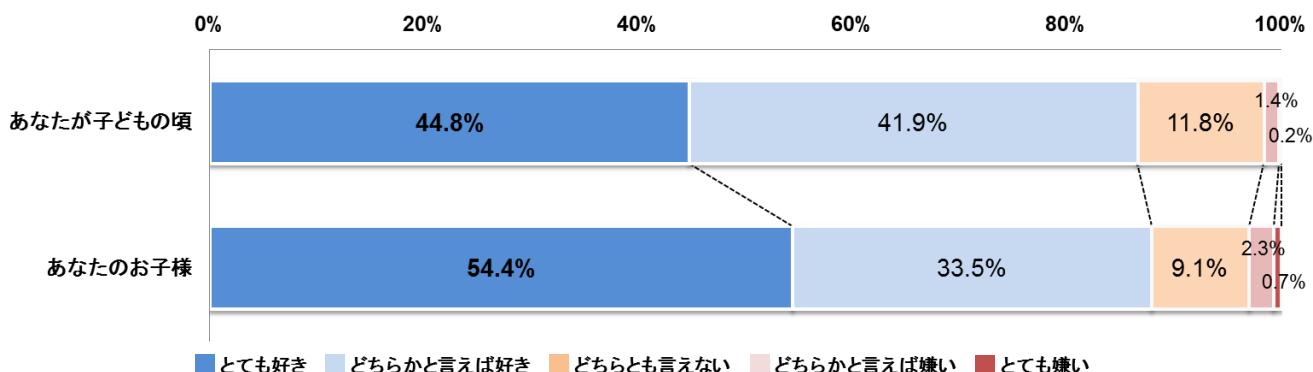


Q. あなたは子どもが公園で遊ぶことのどのような点が大事だと思いますか。当てはまるもの全てにチェックして下さい。

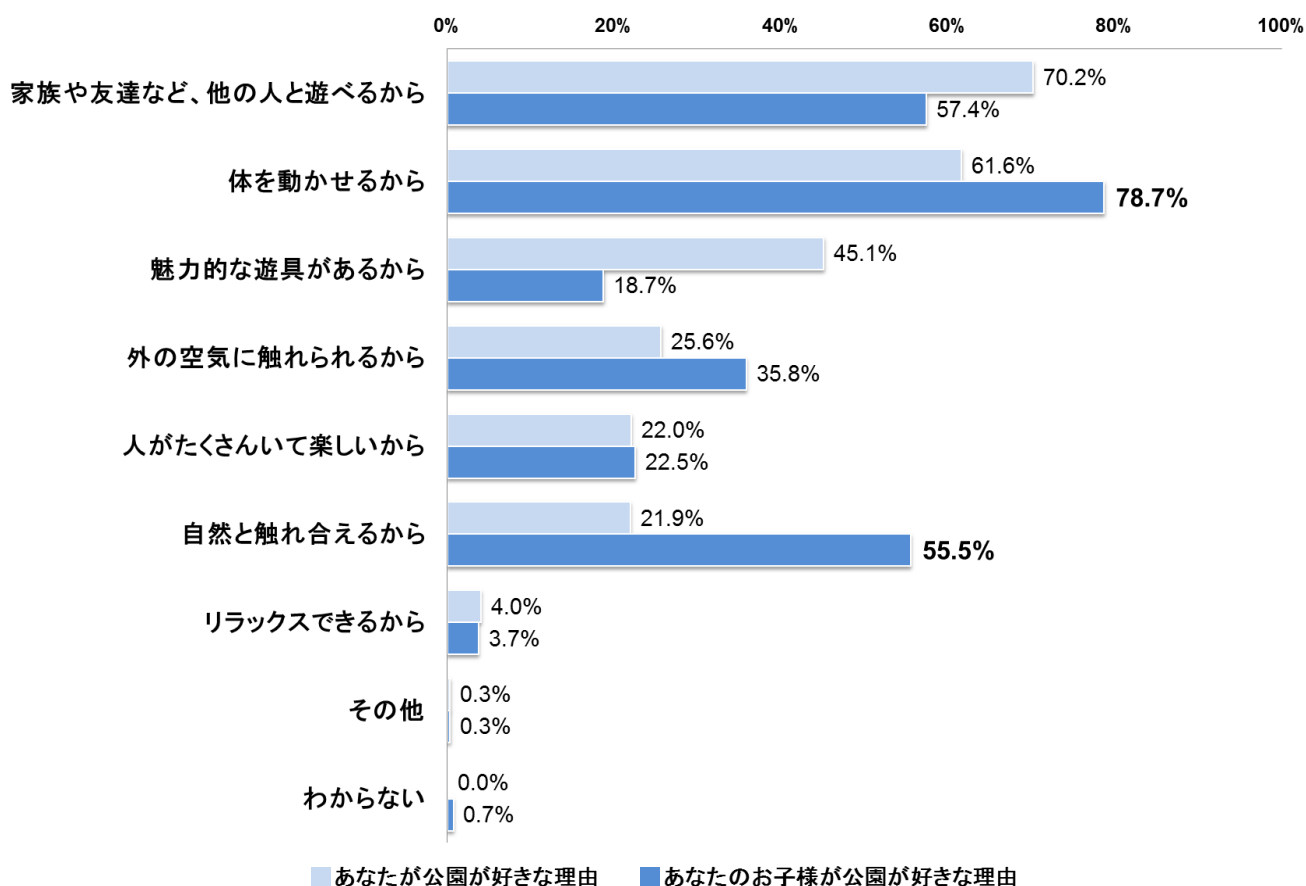


9 割以上 (93.7%) の親が、公園で遊ぶことが子どもの成長にとって大事だと思うと回答。その理由として「体を動かして遊べる点」(92.7%) や「友達やその親、近所の方など、他の人と触れ合える点」(70.4%) が上位に挙がっていることから、多くの親が運動能力やコミュニケーション能力を養う機会を公園に求めていることが窺い知れます。

Q. あなたが子どもの頃、公園で遊ぶことは好きでしたか。また、あなたのお子様は、公園で遊ぶことが好きだと思いますか。



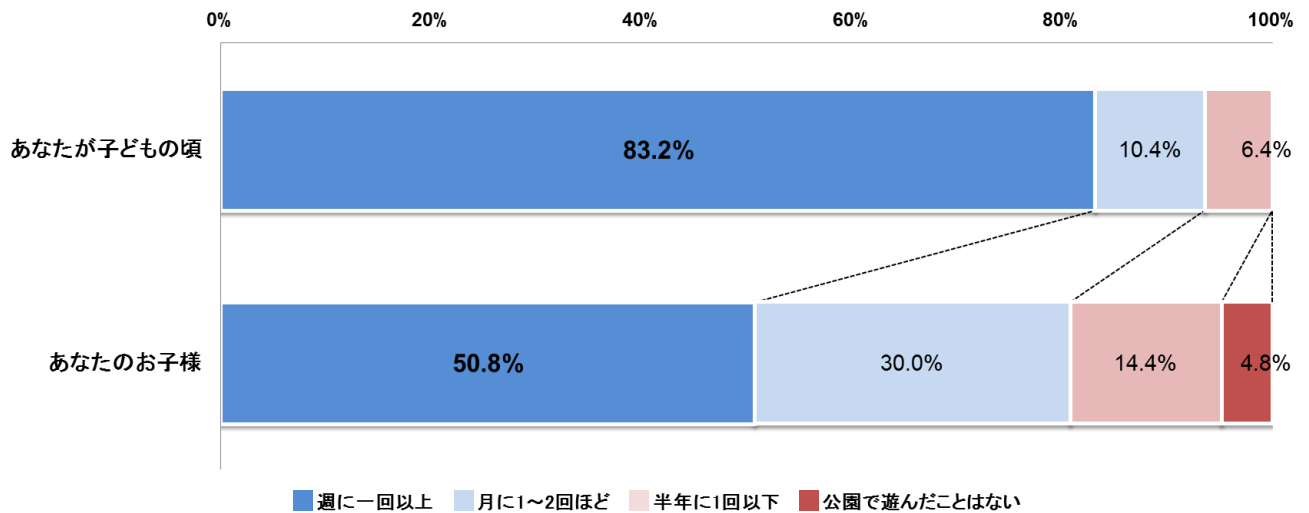
Q. あなたが公園が好きな理由はなんでしたか。また、あなたのお子様が、公園が好きな理由はなんだと思いますか。



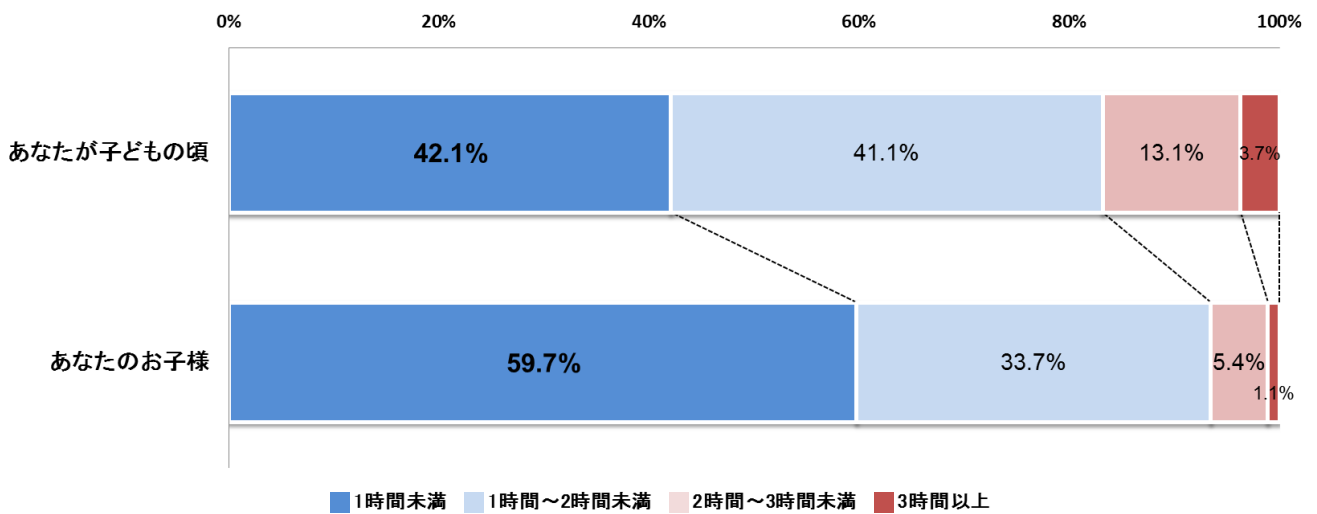
公園で遊ぶことが「好き」と回答した割合は、親が子どもの頃と、今の子どもでほぼ同等でしたが、「とても好き」という回答は、親が子どもの頃よりも今の子どもの方が 9.6 ポイント高い結果となりました。また、今の子どもが公園好きな理由を尋ねると、「体を動かせるから」(78.7%)が最も多く、親が子どもの頃よりも 16.9 ポイント上昇しています。同様に「自然と触れ合えるから」(55.5%)という回答は昔よりも 33.6 ポイント上昇しています。

今の子どもが公園で遊ぶ頻度、時間は大幅減

Q. あなたが子どもの頃、公園で遊んでいた頻度はどのくらいですか。また、あなたのお子様が公園で遊ぶ頻度はどのくらいですか。



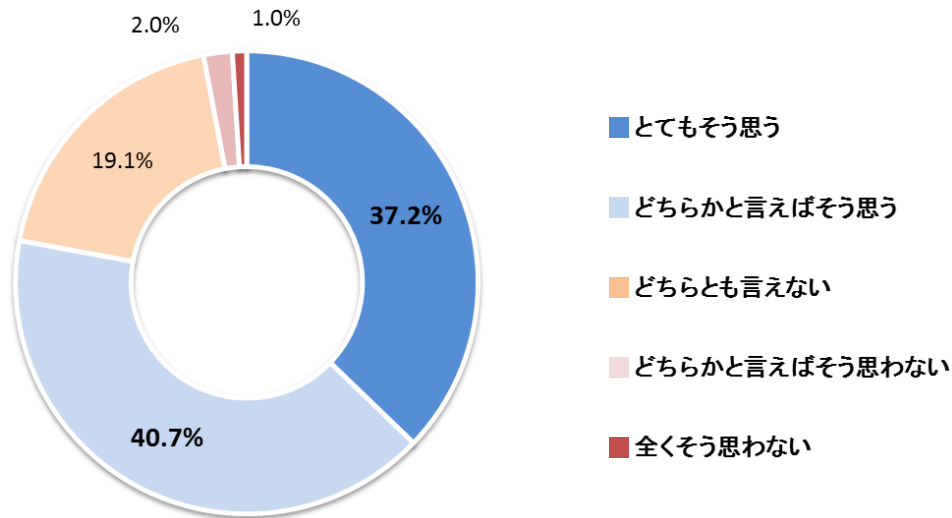
Q. あなたが子どもの頃、公園で遊んでいた時間は1回あたり平均でどのくらいでしたか。また、あなたのお子様が公園で遊んでいる時間は1回あたり平均でどのくらいですか。



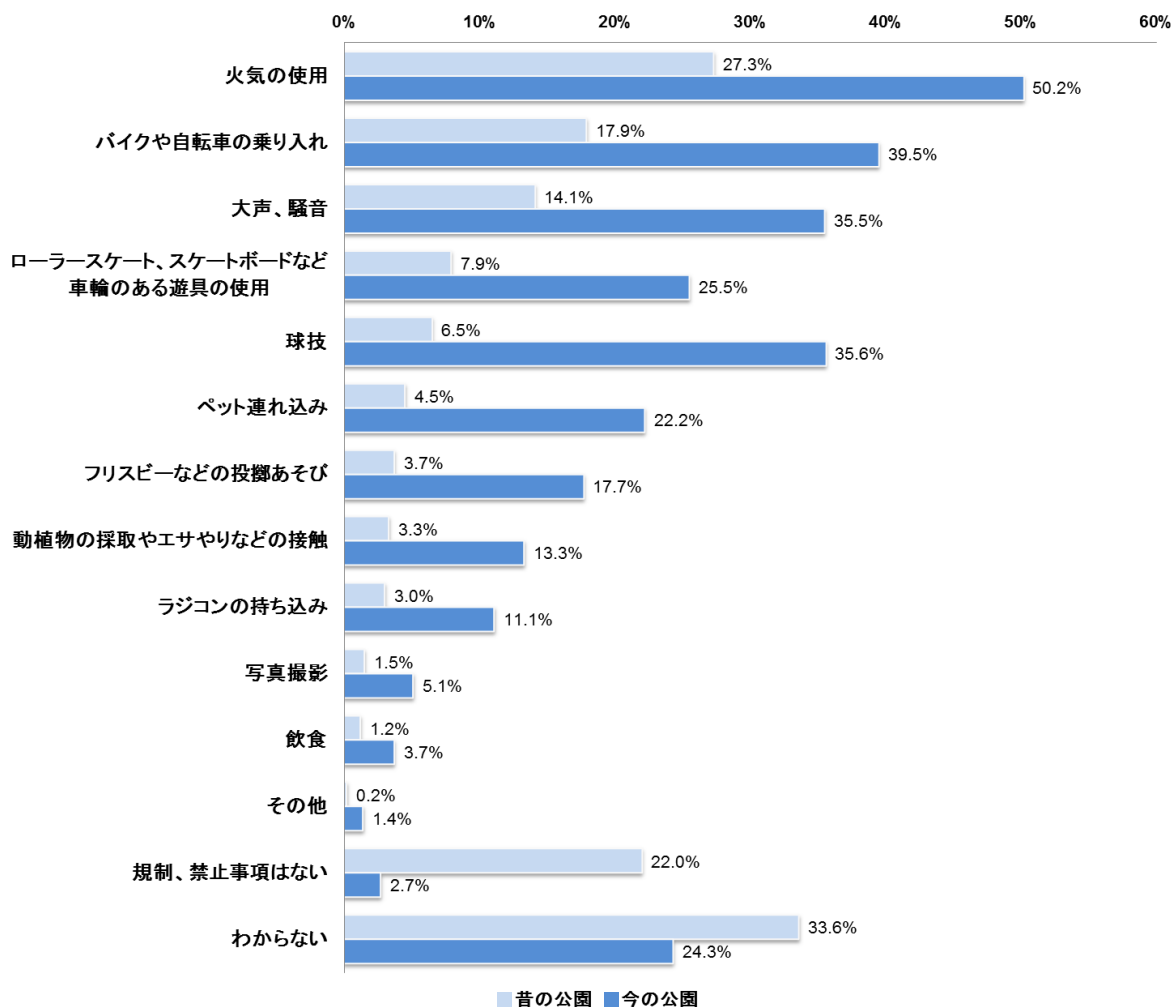
今の子どもが公園で遊ぶ頻度は「週一回以上」が 50.3%と、親が子どもの頃よりも 32.4 ポイント減少。さらに、公園で遊ぶ時間は「1時間以上」が 40.2%と、17.7 ポイント減少しています。ほとんどの親が、公園で遊ぶことが子どもの成長にとって大事だと思っている一方で、「頻度」も「時間」も減少しているという実態が明らかになりました。

規制の増加や遊具の減少で、公園あそびの自由度や魅力が大幅減

Q. あなたは、今の公園は昔の公園と比べて、規制や禁止の事項が増えたと思いますか。

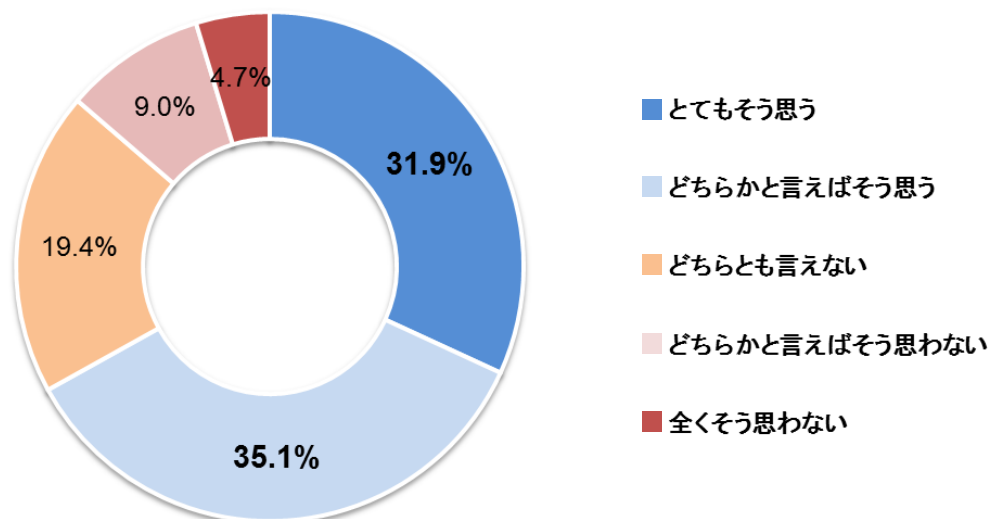


Q. 「昔の公園」で規制や禁止の対象となっていたことと、「今の公園」で規制や禁止の対象となっていることを全て選んでください。

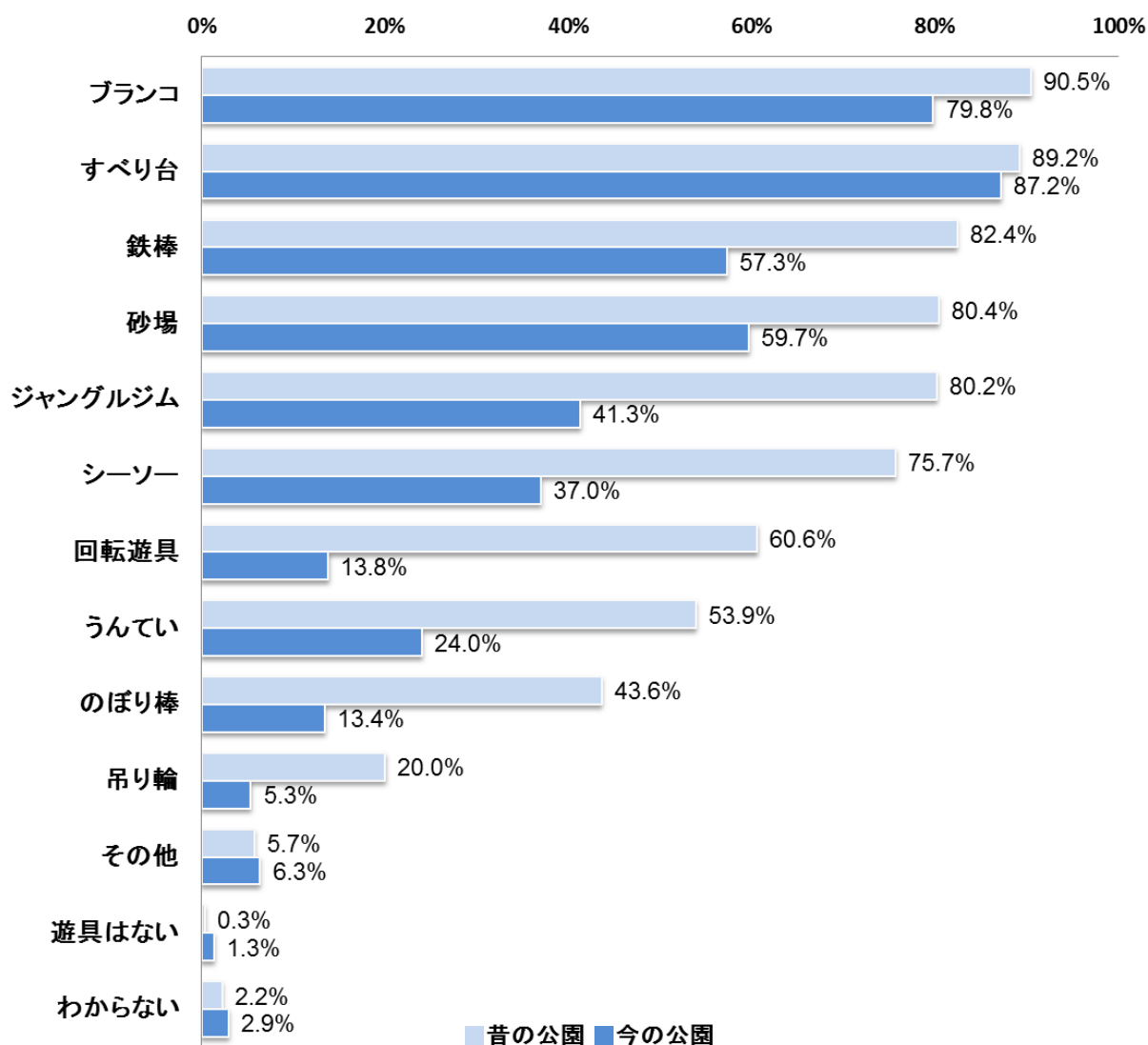


約8割(77.9%)の親が、昔の公園よりも規制・禁止事項が増えたことを実感しています。実際に規制や禁止の対象になっていることを聞いたところ、「大声、騒音」が2倍以上に、「球技」「フリスビーなどの投擲あそび」は約5倍に増えているという結果になりました。

Q. あなたは今の公園は昔の公園と比べて、遊具が減ったと思いますか。

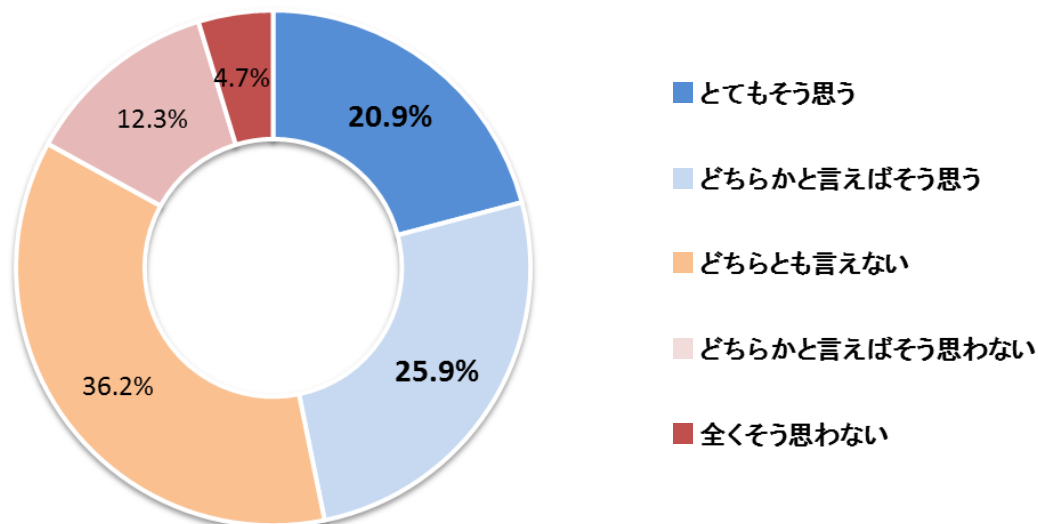


Q. 「昔の公園」にあった遊具と、「今の公園」にある遊具を全て選んでください。

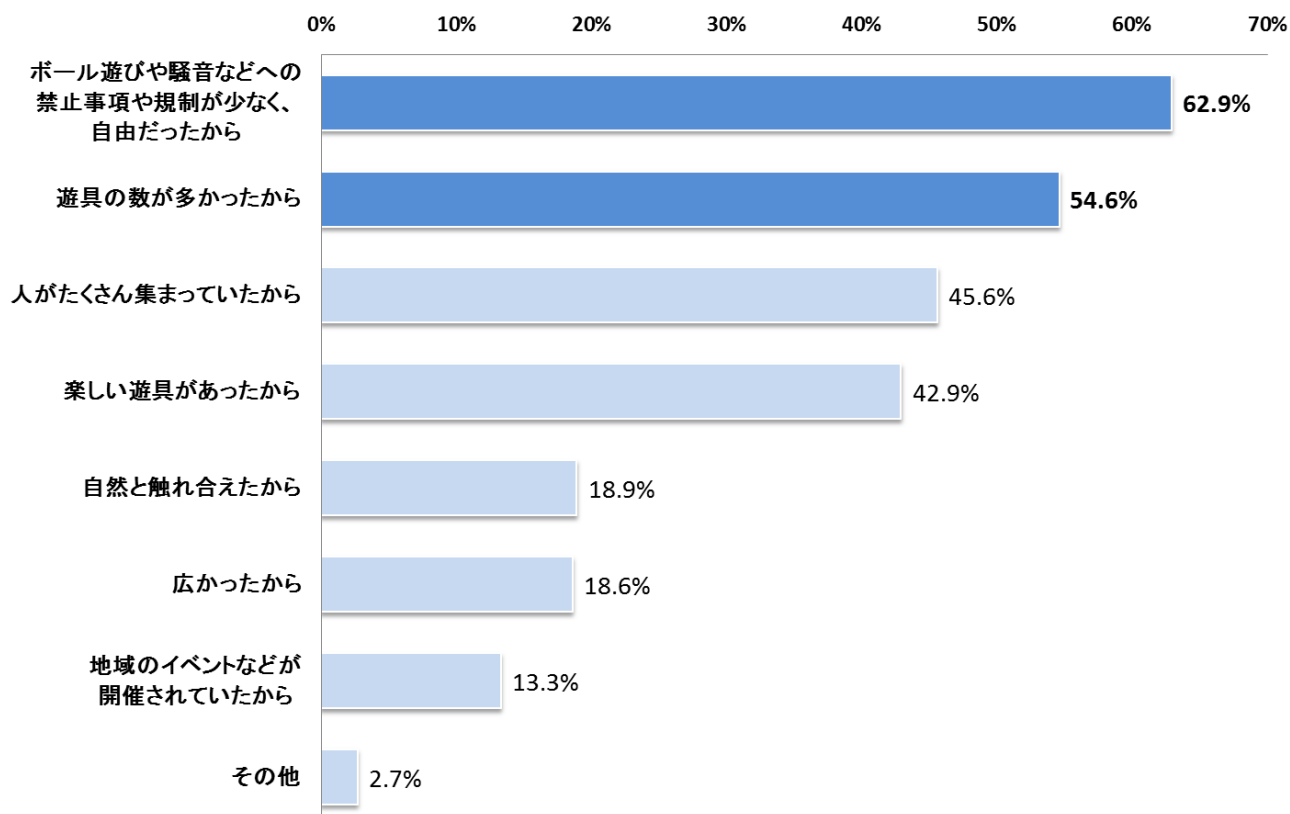


約 7 割(67.0%)の親が、昔の公園に比べて遊具の数が減少したことを実感。昔の公園では数多く設置されていた「ジャングルジム」「シーソー」「うんてい」は、それぞれ半減しており、「回転遊具」においては設置割合が 60.6%から 13.8%と、大幅に減少していることがわかります。

Q. あなたは、昔の公園のほうが今の公園よりも魅力的だったと思いますか。



Q. あなたが感じる、昔の公園のほうが魅力的だった理由はなんですか。

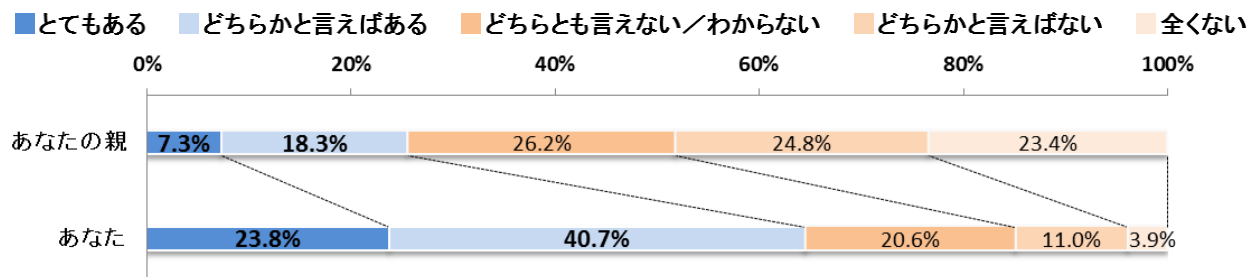


半数近く(46.8%)の親が、昔の公園に比べ、今の公園は魅力が無くなったと感じています。昔の方が魅力的だったと感じる理由として最も多く挙げられていたのは「ボール遊びや騒音などへの禁止事項や規制が少なく自由だったから」(62.9%)、次いで「遊具の数が多かったから」(54.6%)という結果でした。規制の増加や遊具の減少によって、あそびの幅や自由度が狭まり、結果として公園自体の魅力が落ち込んでいるという実態がみてとれます。

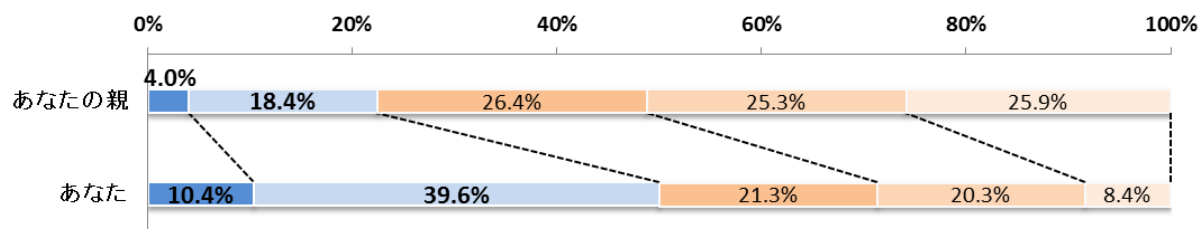
公園で遊ばせることへの不安が増加するとともに、子どもが他の子どもと遊ぶ機会が減少

Q. あなたの親は、下記それぞれの項目が原因で、子どものあなたが公園で遊ぶことに抵抗があったと思いますか。
また、あなたは、下記それぞれの項目が原因で、あなたのお子様を公園で遊ばせることに抵抗がありますか。

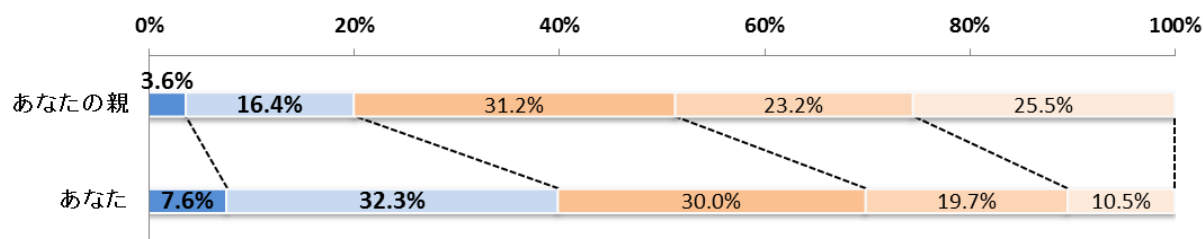
・不審者など治安面での不安



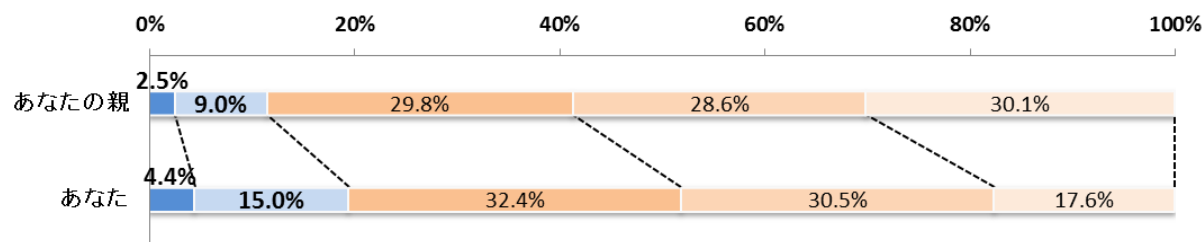
・怪我など安全面での不安



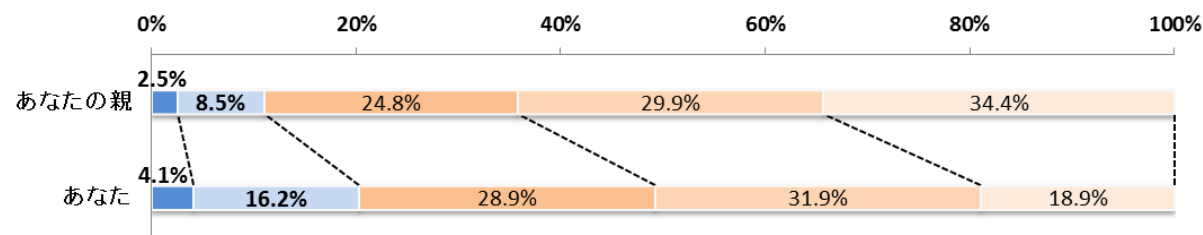
・気温、天候や日照時間などの自然的要因



・他に優先してやらせたいことがある

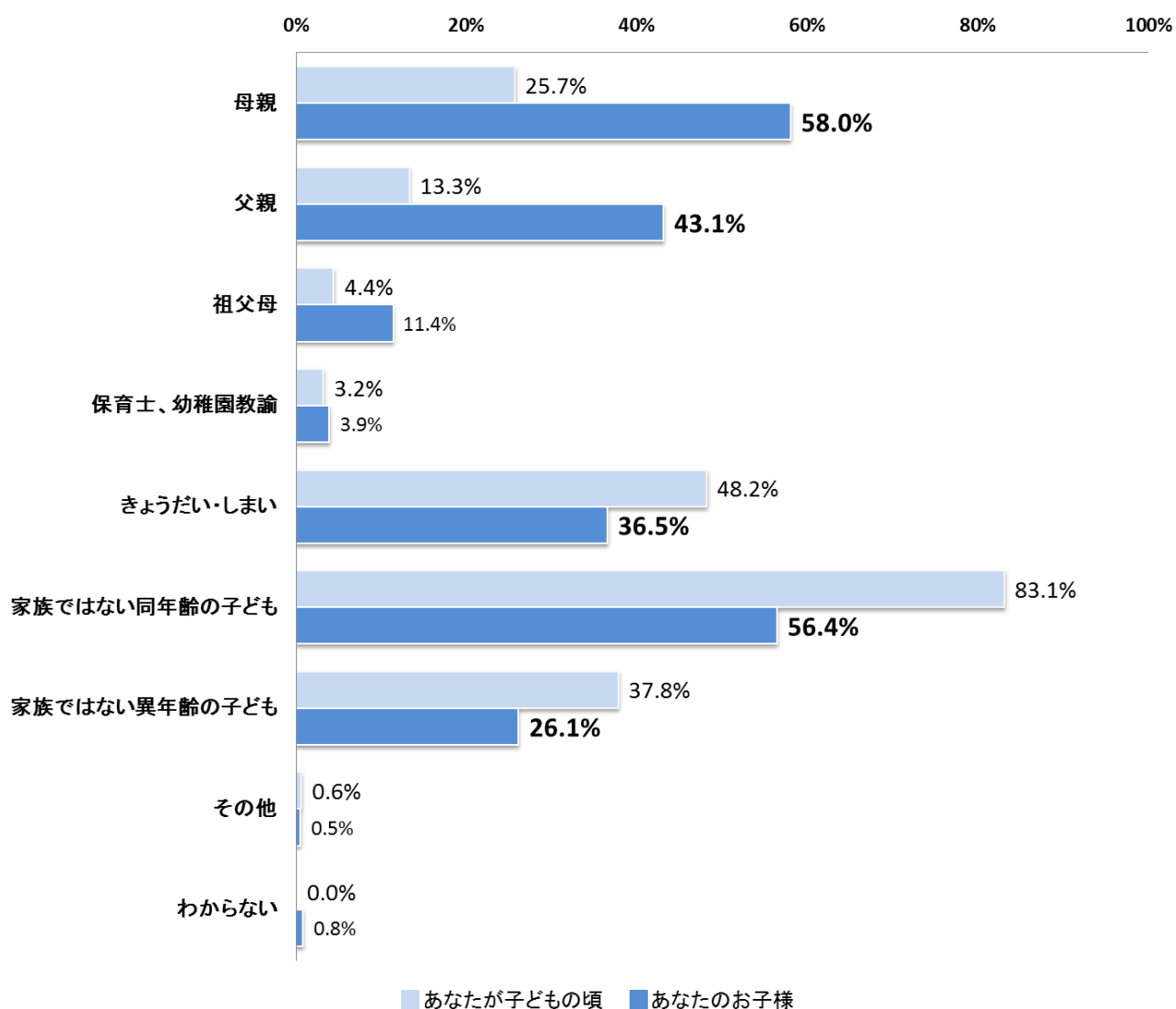


・近隣住民とのトラブルの不安



今の親は昔の親に比べ、子どもを公園で遊ばせることへの不安が大きくなりました。不安要素として最もポイントが高かったのは「不審者など治安面での不安」(64.5%)、次いで「怪我など安全面での不安」(50.0%)となり、いずれも昔の親が不安を感じていたと考えられる割合から倍以上の値を示しています。

Q. あなたが子どもの頃、公園で遊んでいた相手は誰ですか。また、あなたのお子様が、公園で遊んでいる相手は誰ですか。当てはまるもの全てにチェックして下さい。

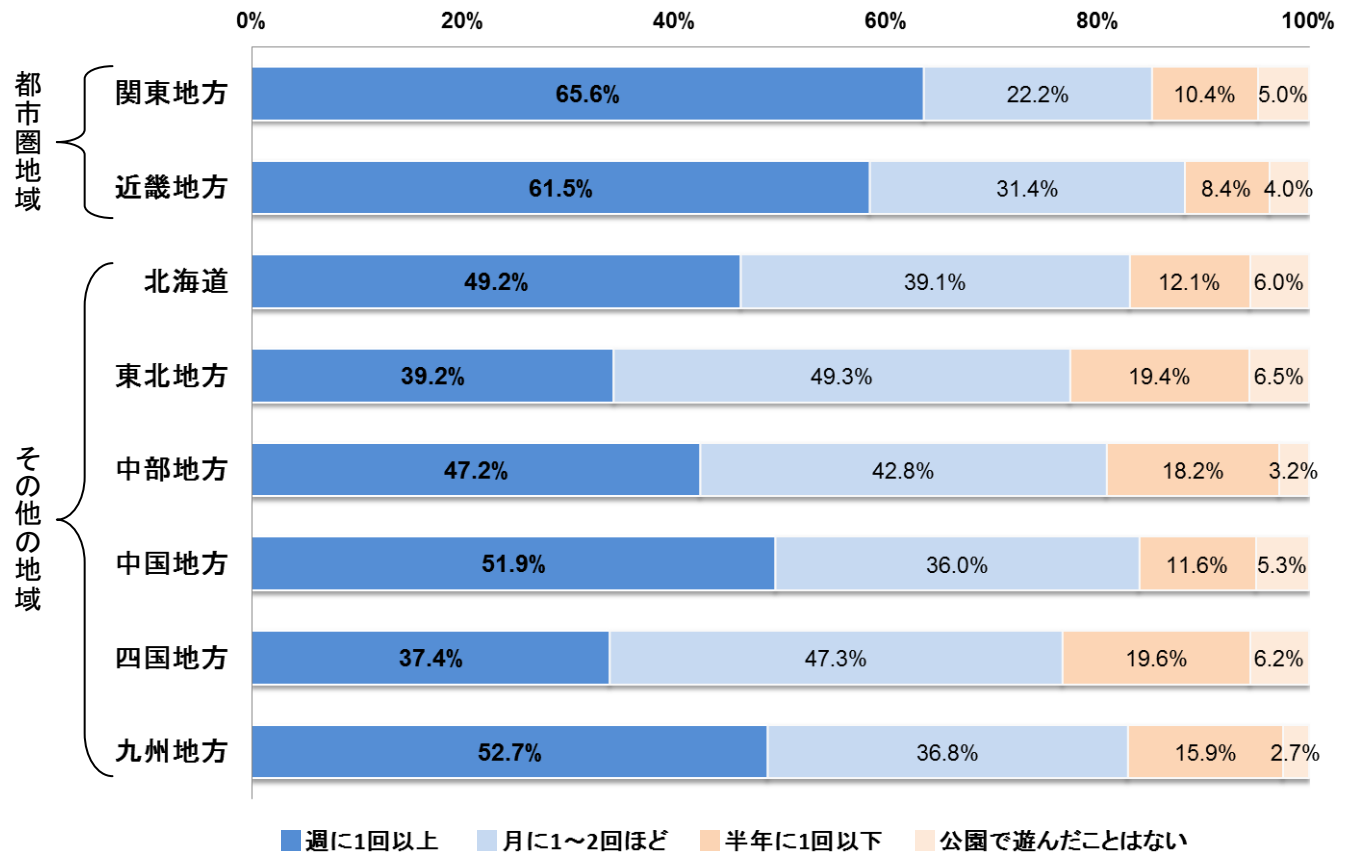


今の子どもが公園で遊ぶ相手を尋ねたところ、昔に比べ「母親」が 32.3 ポイント上昇。また「父親」も 29.8 ポイント上昇しており、昔よりも公園が親子間コミュニケーションの場として盛んに利用されていることが分かりました。

その一方で、「家族ではない異年齢の子ども」は 11.7 ポイント下降、「家族ではない同年齢の子ども」は 26.7 ポイント下降しており、公園で子どもが他の子どもと接する機会が減少していることが分かりました。

大都市圏の子どものほうが、公園で遊ぶ頻度が高い

Q. 現在、あなたのお子様が公園で遊ぶ頻度はどのくらいですか。



子どもが週一回以上公園で遊ぶ頻度を地域別で見ると、大都市圏である関東地方が 65.6%、近畿地方が 61.5%であるのに対し、それ以外の地方の子どもは平均 48.0%と、比較的有意な差となっており、大都市圏の子どもほど、公園で遊ぶ頻度は高いという実態が明らかになりました。

【 調査まとめ 】

今回の調査から、今の親は子どもが公園で遊ぶことを重要視し、子ども自身も体を動かして遊ぶ場として公園を必要としていることが分かりました。公園以外に、こうしたニーズを満たす場所や機会が減っていることが、公園に対する期待値高まりの背景にあるとも考えられます。しかし一方で、昨今は公園での遊びの幅や自由度が制限される傾向にあり、それにより公園自体の魅力は減少。子どもが遊ぶ頻度、時間ともに大幅に減少しているという相反した結果が得られました。また、親が抱える、子どもを公園で遊ばせることに対する安全上・治安上の不安から、公園では親子で遊ぶ機会が増え、反対に子ども同士でコミュニケーションする機会が大幅に減っているという状況も浮かび上がってきました。

ボーネルンドでは、今回の調査結果からも明らかになったこうした現状への解決策の一つとして、多様な場所で、子どもたちが主体的に遊ぶことができる環境づくりを推進していきます。

● ボーネルンドのあそび環境づくり事例①:プレイヴィル 天王寺公園（大阪府大阪市）

大阪の天王寺公園は、かつて機能的に十分整備されておらず、地域の人々が集まる憩いの場とは言いがたい状況が続いていました。2015 年、このような現状を打開するエリア再開発事業の一環として、近鉄不動産と当社が協業し、同公園エントランスエリア「てんしば」に、屋内外のあそび施設「ボーネルンド プレイヴィル 天王寺公園」を開業しました。年齢、興味、体力、ニーズによって変わる子どもの行動を考慮した多種多様な楽しみ方ができる施設で、大小様々な遊具で全身を動かしたり、砂や水などの自然に触れたり、汚れを気にせずお絵描きや自己表現をしたりできる環境が整っています。



● ボーネルンドのあそび環境づくり事例②:オホーツク公園内「ころころひろば」（北海道網走市）

北海道と協業して当社がプロデュースし、2017 年 4 月 1 日にオープンした屋内遊戯施設が、道立オホーツク公園内にある「ころころひろば」です。この施設は、同園の再整備事業の取り組みの一環として作られました。外で体を動かして遊ぶことが日照時間や天候の影響で限られてしまう、北海道の子どもたちが存分に体を動かして楽しめるよう、道内初導入となる大型の体遊び遊具や、空気の力で反発する最新のトラポリン「エアトラック」などを取り入れています。



● 子どもが思い切り体を動かして、主体的に遊べる室内あそび場「キドキド」

「キドキド」は、あそび不足に対する解決策の一つとして 2004 年にスタート。発達段階に応じた多様なあそびを存分に楽しめるよう、ボーネルンドが工夫をこらして設計した、親子のための室内あそび場です。常駐するスタッフ「プレイリーダー」が、たくさんのあそびの見本を示して子どもたちのあらゆる体の動きを引き出し、親子のあそびをサポート。子どもはのびのびと遊び育ち、大人は子育てがもっと楽しくなる場として支持されています。



● 地方自治体との協業による遊び場プロデュース

ボーネルンドが提供するあそび環境は、子どもののびのびとした遊びや、人々のコミュニケーションを生むことから、施設や地域の活性化を目指す数々の自治体にも注目されています。当社では、こうした自治体と協業してあそび環境を作ることも、精力的に行っています。これらの施設には、キドキドの開発・運営の中で培われた、子どもが自身の成長に繋がるあそびを心から楽しめる、道具や仕掛けのノウハウが集約されています。



【 ボーネルンドについて 】

ボーネルンドは、あそびを通して子どもの健全な成長に寄与するため 1981 年に設立し、一貫して“あそびの道具と環境”を提供する事業を展開。一般家庭向け、子どもの成長に必要な生活道具としての“あそび道具”を提案、全国 85 ヲ所で店舗を展開しています。同時に幼稚園や保育園、公園などに高品質な大型遊具や教育道具の提供を含めたあそび環境の開発を行っており、現在までに手掛けた実績は国内約 3 万 5 千カ所まで拡大しています。また、2004 年からは、子どもが遊ぶ機会を増やすために、親子一緒に様々なあそびを体験できる室内あそび場「キドキド」事業をスタート。全国 21 箇所、年間 272 万人以上、「キドキド」のノウハウを取り入れた地方行政の室内あそび場を含めると全国約 30 箇所、年間 350 万人以上の親子が訪れています。

＜報道関係の方のお問い合わせ先＞	
株式会社ボーネルンド 広報室 担 当:村上 T E L:03-5785-0860 E-mail:y-murakami@bornelund.co.jp	株式会社プラップジャパン 担 当:丸山、持富 T E L:03-4580-9104 E-mail:bornelund@ml.prap.co.jp
＜一般の方のお問い合わせ先(ご掲載用)＞	
株式会社ボーネルンド TEL:0120-358-518	